

【緊急調査1：2020/3/16-20】
新型コロナウイルス(COVID-19)に対する
教育機関の対応状況調査結果（速報）

（一社）日本人間工学会
2020/3/25

Summary

- 新型コロナウイルス(COVID-19)への現段階での教育機関における情報通知・実施状況を把握し、人間工学の観点から社会へ推奨事項を提案する基礎資料とするために、教育機関に勤務するJES会員を対象にオンライン調査を実施、120名から回答を得ました。
- 「体調不良時には自宅療養すること」、「37.5度以上の熱が4日間以上続くときは保健所に相談」といった**感染時の対応**、**渡航禁止・自粛要請**、**濃厚接触の自宅待機**といった**行動制限**については、おおよそ7割の機関で周知されていました。
- 一方で、手洗いの勧奨は8割程度周知されていますが、マスクの廃棄方法、帰宅時の洗顔、テレワークの導入、オンライン会議といった**予防に関する行動変容**や**労働環境整備**について周知されていたのは4割以下でした。
- 「専門分野でどのような貢献ができるか」の自由記入に対し、半数の方(60/120名)がアイデアを回答してくださいました。主に、**教育**、**情報通信技術**、**オンラインメディア活用**、**労働安全衛生対策**、**心理学・行動科学**、**科学コミュニケーション**、**環境人間工学**など多面的な専門分野から貢献できる可能性が示されました。

調査概要

□目的：教育機関に勤務する学会員を対象に，COVID-19への現段階での教育機関における情報通知や実施状況を把握し，人間工学の観点から社会へ推奨事項を提案する基礎資料とすること

□オンライン調査法

<アンケート回答サイト>

https://questant.jp/q/jes202003survey_part1

□回答期間： 2020年3月16日（月）～20（金）



日本人間工学会学会事務局
〒107-0052
東京都港区赤坂2-10-16
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278
Fax 03-6277-7412
E-mail jes@ergonomics.jp
Web <http://www.ergonomics.jp/>

回答者属性

□回答者： 120名（／772名*1，回答率15.5%）

*1:正会員1,319名中教育機関に勤務する学会員数

□勤務先： [大学]90%，[高専・専修学校]：7.5%，[短大]：2.5%

□性別： [男性]75%，[女性]25%

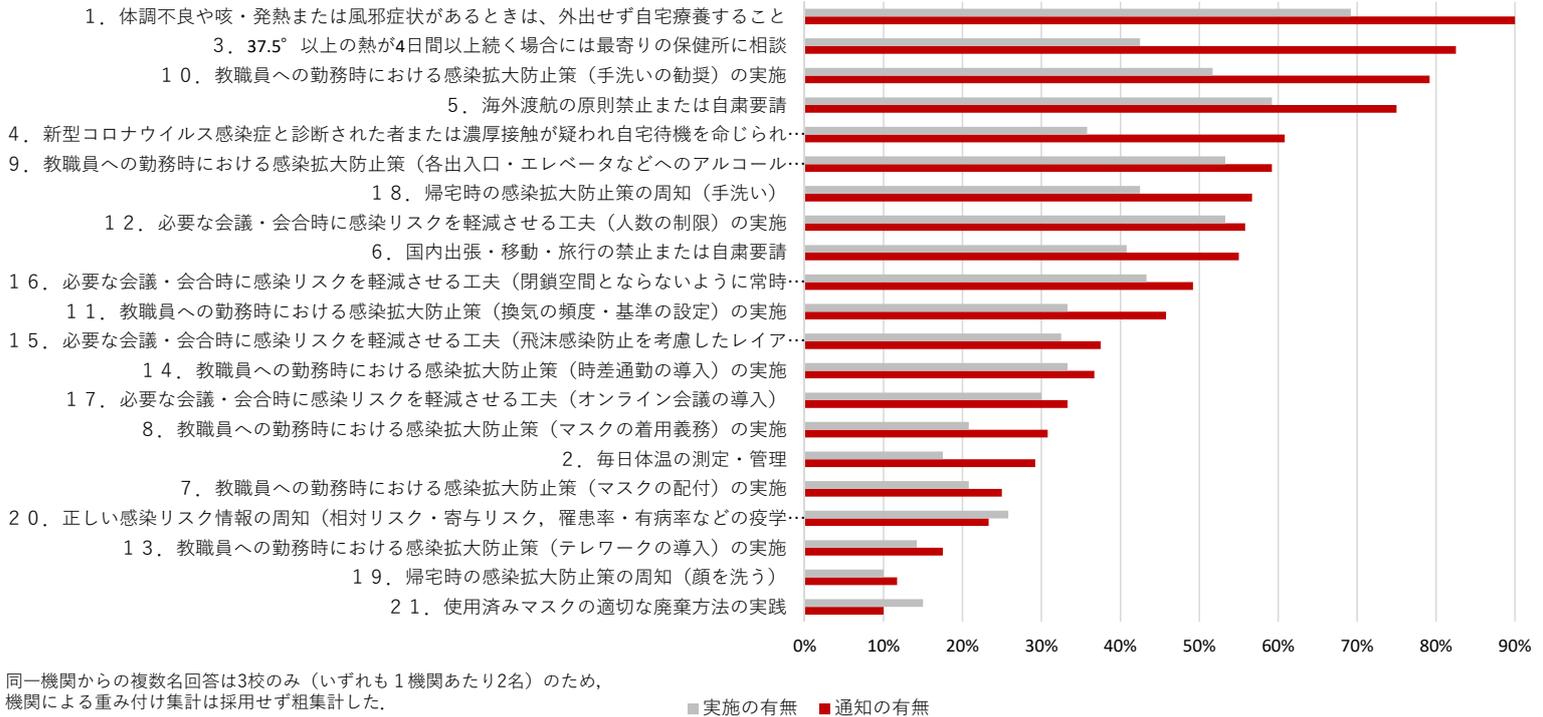
□年代： [20代] 0.8%，[30代]13.3%，[40代]28.3%
[50代]40.0%，[60代]16.7%，[70代] 0.8%



日本人間工学会学会事務局
〒107-0052
東京都港区赤坂2-10-16
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278
Fax 03-6277-7412
E-mail jes@ergonomics.jp
Web <http://www.ergonomics.jp/>

教育機関内での教職員への通知・実施状況



COVID-19に対して、あなたの専門・研究分野・教育分野でどのような貢献ができるか？

■ 感染対策・標準予防策に関する教育，リスク教育，啓発：16件

- ・教育では医療従事者（臨床工学技士）の育成が業務であり、通常のスタンダードプリコーションなどといった教育が日常の場でも実践されれば、感染対策の貢献にあたると思われる。
- ・学生に対する個別衛生指導とともに公衆衛生教育の徹底
- ・正しい感染対策など正しい知識の普及
- ・マスクの作成方法を指導
- ・臨床医としての診療ならびに教育
- ・个人防护具の適切な着脱方法についての教示
- ・感染予防対策の健康（保健）教育
- ・感染予防行動に対する周知（学生らへの教示）医療従事者（看護師など）の支援
- ・適切な感染予防策の実施による、教育への負の影響を最小限に留めること。危機を教育に活かすこと。危機を働き方改革に活かすこと。
- ・本学は医療系の大学であるため、学生に対し感染予防の方法について普段から意識を高める指導を行っている。今回の新型コロナウイルスにおいては、その特徴を踏まえた特に気を付ける点について情報発信することはできると思う。
- ・医療従事者（作業療法士）を養成する教員として、次期医療従事者となる学生にも知己や技術を習得させる義務があると考え。その点の教育を怠らない心構えで指導していきたい。
- ・効果的な感染予防具の装着方法、効果的な手洗い方法を伝えることができる。
- ・衣服の着用方法 管理について貢献できるのではないかとと思う
- ・冬道歩行における滑り転倒の防止に関する調査研究 外出の自粛、臨時休校によるストレスの解消に対して散歩など戶外活動が推奨されたが、積雪凍結路面での安全な歩行のための指導（ただし、本アンケートを記述している段階では、ほぼ積雪がゼロとなっている）。
- ・専門家の推奨すること（手洗い、うがい、換気、水分補給など）を確実に行うよう指導すること（ONLINEでの実施）。
- ・正した手洗いの方法を示す。

COVID-19に対して、あなたの専門・研究分野・ 教育分野でどのような貢献ができるか？

■ VR技術・情報通信新技術活用, 人間中心設計技術, 人間工学製品設計：6件

- ・VRを使ったリモート授業・リモートワークの促進など
- ・テレロボティクスとバーチャルリアリティ
- ・情報伝達手段の分かりやすさについての評価
- ・情報通信技術を利用した情報の伝達と人間の行動パターンの統計処理による動態のモデル化
- ・できるだけ手を使わない姿勢支持や消毒薬容器、衛生管理の道具のデザイン、紫外線殺菌LED装置の安全で使いやすいデザイン、科学的知識をわかりやすく生活行為にむずびつける説明。
- ・感染防止を促すプロダクトやシステムの提案（曖昧ですみません）

■ 産業疲労・労働安全衛生対策：6件

- ・労働者の疲労対策（医療従事者などCOVID19対応従事者）、テレワークの人間工学指針の提供、オンライン講義が増えることに伴う情報機器作業のガイドラインの提供など
- ・行動制限に対するメンタルストレスに関すること
- ・環境衛生学の観点からの感染予防周知
- ・環境衛生学を研究分野としているが、正直、社会に対して、どう働きかけていいかは分からない。
- ・テレワーク等によるコミュニケーション方法の改善策提案・ストレス緩和手法の提案
- ・テレワークによる勤務中の健康管理対策（作業姿勢や休憩の取り方）について伝えることができる。



日本人間工学会会事務局
〒107-0052
東京都港区赤坂2-10-16
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278
Fax 03-6277-7412
E-mail jes@ergonomics.jp
Web <http://www.ergonomics.jp/>

COVID-19に対して、あなたの専門・研究分野・ 教育分野でどのような貢献ができるか？

■ オンラインメディアの活用：4件

- ・オンライン講義の実施方法の教員間での教授
- ・オンラインツールを用いて、適切な対応方法や正確な情報について伝えること
- ・遠隔教育支援
- ・健康、医療系ではないので直接できることはないが、情報系としては遠隔講義のサポートくらいだろうか。

■ 心理学・行動科学：4件

- ・リスク教育（心理学的）
- ・トイレペーパーの大量購入などが同調性バイアスが原因であることを安全管理をテーマとした授業で紹介し、現実的な事例として理解を深めてもらう。
- ・適切なリスク認知、リスク回避行動を促進するための研究
- ・アメリカ心理学会（APA）公式Webサイトに掲載された記事 ""Keeping Your Distance to Stay Safe"" の日本語版が日本心理学会より公開されたので、これを精読し、適切な心理学の観点からの対応策等の知識の普及に努める。

■ リスクアセスメント：4件

- ・危機管理方法など
- ・適切なリスク認知と対応行動に関すること
- ・リスクアセスメント
- ・リスクマネジメントの進め方、適切なリスクレベルの設定など



日本人間工学会会事務局
〒107-0052
東京都港区赤坂2-10-16
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278
Fax 03-6277-7412
E-mail jes@ergonomics.jp
Web <http://www.ergonomics.jp/>

COVID-19に対して、あなたの専門・研究分野・ 教育分野でどのような貢献ができるか？

■ 科学コミュニケーション・サイエンスリテラシー：4件

- ・インフォグラフィックスによる啓発
- ・適切な情報の周知 住民の不安への対応（疑問に対する説明）
- ・一般市民と専門家のリスクコミュニケーション、院内感染防止の病院マネジメント、バウンダリーレスな組織間の協働に関する有効性に関する助言、現状把握、資源調査。
- ・メディア論の分野から、マスメディアコンテンツの信憑性を判断するリテラシー教育強化

■ 環境人間工学：3件

- ・自動車内での窓開放やエアコンの設定による換気効率の変化について
- ・換気の大切さを伝える。日頃から近隣への視線回避や学生の落下防止等の観点から、閉鎖窓があまりにも多く、常時より閉鎖的空間となっている。また、24時間換気システムを理解していない職員が多く、節電の名目の下、換気オフとされている。
- ・換気による感染症対策（換気量、換気方法）

■ 生体情報・生理心理・行動データのビッグデータ解析：3件

- ・心身状態センシングおよび改善方法の提案
- ・エスノグラフィを用いた感染ルートの解明へのサポート
- ・行動制御



日本人間工学会会事務局
〒107-0052
東京都港区赤坂2-10-16
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278
Fax 03-6277-7412
E-mail jes@ergonomics.jp
Web <http://www.ergonomics.jp/>

COVID-19に対して、あなたの専門・研究分野・ 教育分野でどのような貢献ができるか？

■ その他

- ・体温以外の感染しているかを判定するガイドライン作成
- ・専門の研究による貢献は厳しいです。
- ・医療系の大学なので実際に感染の現場に赴く者もおります。
- ・病原体に対する生物学的防除、伝播過程のシミュレーション試験
- ・大学の危機管理委員会に所属し、見解を示す。



日本人間工学会会事務局
〒107-0052
東京都港区赤坂2-10-16
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278
Fax 03-6277-7412
E-mail jes@ergonomics.jp
Web <http://www.ergonomics.jp/>

さいごに

.....

第1回緊急アンケートにご協力いただきました学会員の皆様に
深く感謝申し上げます。

今回の調査および第2回調査（2020/3/25-31を予定）を通じて
会員の皆様と共にCOVID-19の公衆衛生危機に対し、
人間工学がどのような貢献ができるのかを議論する契機としたいと思います。
ご意見・ご提案などございましたら学会事務局までご連絡ください。

< 日本人間工学会事務局 >
jes@ergonomics.jp

* 本報告は第1回調査の速報です（回答いただいた内容の一部のみ集計）。
詳細なレポートは別途学会 ウェブサイトに今後公開予定です。



日本人間工学会学会事務局
〒107-0052
東京都港区赤坂2-10-16
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278
Fax 03-6277-7412
E-mail jes@ergonomics.jp
Web <http://www.ergonomics.jp/>



一般社団法人 日本人間工学会
学会改革・戦略委員会
The JES Strategy and Innovation Committee